



第3回臨時会・第4回定例会

議案審議	P2~P3	委員会報告(熊本地震・九州北部豪雨)	P8~P9
一般質問(4名が登壇)	P4~P7	文化サークルの紹介(陶芸クラブ)	P10

第4回定例会が12月13日に開会し、12月19日に閉会しました。議案8件（条例5件・予算3件）と諮問1件（人権擁護委員候補者の推薦）は、原案どおり可決しました。決算審査特別委員会に付託されていた平成29年度の決算8件は、すべて認定しました。

非常用電源

備品購入 219万7千円

質疑

災害時の停電対策として、大型電源を3台、小型電源を5台購入しますが、保管場所はどこですか。また、機械の容量はどれくらいですか。

答弁II総務課長

- 【大型電源の保管場所】
- ① 稲原防災センター
 - ② 切目川防災センター
 - ③ 田ノ垣内の旧まづま保育園
- 【小型電源の保管場所】
- ・各地区の防災備蓄倉庫に1台ずつ5か所

【容量】

- ・大型II2、8キロワット
 - ・小型II1、6キロワット
- 大型は、通常約18時間作動します。

小学校教室の空調設備

設計委託料 560万円
 工事請負費 1億3千6百万円

質疑

小学校普通教室のエアコンについて、空調方式は何ですか。また、耐用年数は何年ですか。

答弁II教育課長

方式は、ガス方式です。耐用年数は、10年とされていますが、それ以上は使用できると考えます。

質疑

工事には地元業者を優先させることはできませんか。また、入札から契約までの道筋はどうなっていますか。

答弁II副町長

指名業者はできるだけ地元業者を使いたいと考えますが、最も合理的な方法で発注したいと考え、現在検討中です。工事は、平成31年夏の完成を目標にしています。1月末ごろに入札する予定です。

第4回 定例会 (12月13日～19日)		中島	夏見	前田	藤薮	杉谷	玄素	岡本	藤本	古川	榎本	玉置	堀口 [※]
条例	職員の給与に関する条例 (改正)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	地方活力向上地域における固定資産税の特別措置に関する条例 (改正)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	中小企業・小規模企業振興基本条例 (新設)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
予算	平成30年度補正予算 5件 (一般会計・国保・介護・後期高齢・水道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
推薦	人権擁護委員候補者の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度 決算認定	一般会計 特別会計 6件 (国保・介護・後期高齢・滝ノ岡水道・農業集落排水・同和新築貸付) 公営企業会計 1件 (水道)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

※議長は裁決に加わりません。

**切目駅舎リノベーション
設計委託料 151万7千円**

質疑

切目駅舎の改修について、これは、印南町の財産ですか。
また、切目駅が無人化すると聞きますが、今後どのように対応していくのですか。

答弁II企画政策課長

切目駅はJRが所有していますが、現在無償譲渡についての協議を行っています。

平成31年4月以降、切目駅の無人化が想定されています。これに対し、町で管理し、有人化することにより、区民が憩い、切目駅の歴史文化を引き継いでいく必要があると考えます。



**保健センターの
本庁舎移転について**

質疑

保健センターが4月から役場本庁舎に移転しますが、その後、切目の社教センターには新たに職員を配置するのですか。

答弁II住民福祉課長

保健センター機能が本庁舎に移転した後も、隣保館事業として引き続きそこに職員1名の配置を検討しています。

**ブロック塀等耐震対策
補助金 100万円**

質疑

9月議会でブロック塀改修等の補助が拡充されましたが、この事業はまだ継続するのですか。

答弁II総務課長

この事業は、平成28年度は3件、29年度は1件でしたが、今

年度はすでに10件を超えました。
今後も検討を重ねながら、利用しにくい点があれば改善していく考えです。

現在はこれを終了させる考えはありません。

**新築住宅等取得
助成金 700万円**

質疑

若者定住施策としての助成金が増額されましたが、申請内容について説明してください。

答弁II企画政策課長

この事業は、平成27年度から29年度まで、1500万円の予算がほぼ満額消化されています。

今年度は、現在見込みを含んで22件と申請が多いため、今回700万円を増額しました。
内訳は町内14件、県内から転入7件、県外から転入1件です。

【諮問】
人権擁護委員の候補者の推薦

次の方を、人権擁護委員候補者として適任と認めました。
・石橋 理代 (継続)

11月26日、第3回臨時議会が開かれました。

台風20・21・24号の災害復旧等のための予算が計上され、満場一致で可決されました。

第3回 臨時会 (11月26日)		中島	夏見	前田	藤薮	杉谷	玄素	岡本	藤本	古川	榎本	玉置	堀口 [※]
その他	損害賠償の額を定めること(2件)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
予算	平成30年度一般会計補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

※議長は裁決に加わりません。

一般質問



榎本 一平 議員

命を守る防災対策の強化を

質問 印南町でも高齢化問題が深刻ですが、この現象により防災分野に様々な支障が発生します。

高齢化の進行と地域の対応力について、行政はどのような認識を持っていますか。

答弁 総務課長

助けられる側の人が増え、助ける側の人が減少することは、共助の観点から大変深刻な課題と認識しています。

質問 町では防災訓練を行っています。ここでは中学生・高校生の皆さんも積極的に消火訓練、救助訓練、防災設備の点検などに参加いただいたらどうか、という提案ですが、見解を求めます。

答弁 町長

自主防と中・高校生、地域の人と一緒に訓練は行っています。今後協議しながらやっていきたいと考えています。

質問 視察した朝倉市や東峰村は、激しい雨をもたらす線状降水帯が発生しました。

情報が目まぐるしく変化する中で、住民の方に正確な情報を伝達することが重要です。防災行政無線での情報発信は、すべての住民の方が聞き取ることができる状況になっていますか。

答弁 総務課長

行政無線は町内に94箇所設置しています。その中で聞き取りにくい場所があるので、個別受信機で対応しており、現在300個を貸与しています。

質問 全世帯への個別受信機を設置する対応が必要では。

答弁 総務課長

多くの家庭に設置したいと考えていますが、費用の問題があります。希望する方に無料貸与の対応をしています。

風疹の流行に 対する対策を

質問 平成25年に続き風疹が流行しています。

風疹による大きな問題は、妊婦が風疹に感染すると胎児にも感染し、「先天性風疹症候群」にかかる事です。風疹にかからないように、「免疫を持たないのはどの様な世代なのか」など情報提供が必要ではないですか。

答弁 住民福祉課長

注意喚起の広報は行っていない。罹患を防ぐ対策として、予防接種助成事業や女性自身に感染しない対策を基本とした広報などを行っています。



一般質問



岡本 庄三 議員

小学校の英語教育について

質問 2020年度から英語の授業について、現在は小学5年（話す・聞く）からである英語の授業が小学3年から取り組むこととなり、5・6年生は教科化（読む・書く）されることとなります。

本年度からは移行期間となり、各自治体においては授業数を増やしたり、英語の専科教員を配置していますが、印南町ではどのような対応をされていますか。

答弁 教育長

学習指導要領の完全実施は2020年度からで、「外国語科（英語）」を、5・6年生は70時間、即ち週2時間となり、教科書を使用することとなります。3・4年生は、「外国語活動」として35時間、週1時間、国から配布される副読本を使用することとなります。

本町においては今年度から移行期間として、3年生・4年生は国からの配布物「Let's

Go!」を使用して15時間の外国語活動を実施するとともに、5・6年生はこの移行期間50時間となり、外国語活動の内容に加えて、外国語科（英語）の内容を扱い、国からの副読本「We can!」を使用し、電子黒板を利用して学習を進めています。

小学校3・4年生の外国語活動を年間15時間、5・6年生の外国語活動（英語）を年間50時間、担任とその英語教員がTT指導をしながら、4小学校で行っています。

再質問

今年の「県内小学生は全国学力テストの成績が県平均で20位だった」ということなんですけども、当町はそれよりも上ですか、下ですか。

答弁 教育長

毎年学習集団は違います。その中で良好な年があれば課題のある年もございます。

県が悪かった年もありますが、その年に印南町が良かった

時もございます。

そういう中で、今年度の小学校には課題はありました。

再々質問

そのための結果であるので、別に言っても問題ないと思います。いかがですか。

答弁 教育長

結果は大切だとは私も思っております。

その中で一人一人の子ども達の状況を見取って行ける人数ですから、印南町の場合は、その中でその子どもに付いていない力を付けていくのが教育の本質だと私は思っています。



一般質問



藤藪 利広 議員

地震発生時の 放送について

質問

11月2日午後4時54分、当地域に震度4の地震が発生し、「火のもとを確認し、落ち着いた行動を」との放送が流れました。一部の住民が放送に従い避難しましたが、その後、町内放送はなく、迷ったそうです。火事の場合は「鎮火しました。ご協力ありがとうございます」という放送が流れますが、「津波の心配はありません」という放送ができないのか、お聞きします。

答弁

総務課長

町からの情報発信は、テレビ和歌山のデータ放送、ツイッター、町ホームページ、Lアラート等で防災情報を発信しました。今回の場合は、津波注意報や津波警報といった発令ではなく、今後とも現在と同じく、緊急でない情報、解除等の情報については、あらゆる状況、時間帯等も考慮しながら対応していきたいと考えています。

旧被災想定基準時に設置された避難タワーの 今後について

質問

平成22年、浜区に設置された避難タワーは、古い想定(津波襲来時の基準水位1〜2m)時に設置され、その後想定見直し(津波襲来時の基準水位5〜10m)されて以来、その運用について明確にされていません。避難タワーの立ち位置を明確にしておくことが、浜区のみならず、町にとっても大事であると思えますが、どの様にお考えですか。お聞きします。

答弁

総務課長

初期の目的である、周辺住民、浜の自主防災会、特に浜東地域では、「緊急避難場所として確保したい」との思いであると聞いています。地理的条件等を勘案して、現在も周辺住民の緊急避難場所として位置づけています。

再質問

想定が変更されているのに緊急避難場所として使われると、町民や国道を通る方々に「そこへ逃げれば安心だ」という誤ったメッセージを送ることにはなりませんか。

答弁

総務課長

元々このタワーは、特に浜地域の避難されにくい方(大体70名程度)が避難する計算で造つてあります。国道を通る人達など、色々な方がいますが、全ての人をカバーする避難タワーではありません。

「このタワーは9.4m」と記載しています。浜東地域の中で、避難する所がない方々のために設置したものです。今後、検討はしていきたいと考えています。

若者定住のための 宅地造成進捗について

質問

町主体で大なり小なり宅地造成をする意思はありますか。現状計画があるとお聞きしていますが、具体的にどこに計画していますか。

答弁

企画政策課長

現在、町内2地区で調査検討しています。具体的には印南地区と稲原地区で調査検討しています。





地域防災計画について

質問 切目・印南地区では、津波災害への意識が非常に高く、避難訓練等が行われていますが、津波が来ない地域の方は低く感じます。

各地区の自主防災組織の育成状況はどうなっていますか。

答弁 総務課長

現在48ある各自自主防災会に対しては、活動補助金・資材購入補助金の交付を行っています。

沿岸部の自主防災会は、毎年数回ワークショップを開いて意識向上を図るとともに、避難訓練を実施しています。山間地(津波想定外の地域)においては、意識が少し低いか、または下火になってきている地域もあります。今後、一層の育成を図っていきたく考えています。

質問 災害発生時の情報体制は、どのような対策をしていますか。

また、激甚災害の指定を受け、様々な事務手続きが必要

となります。他市町村との相互派遣の協定締結が重要であると思いますが、復旧体制についてはどのようにお考えですか。

答弁 総務課長

「情報が命を救う」が当町の防災の柱であります。現在地域防災計画の見直しに加え、情報発信機器の検討も行っています。

復旧体制においても、情報の収集と発信が重要で、職員体制については、被害の少ない市町村からの応援体制等を事前に検討したいと考えています。

質問

近年の災害ボランティアは想像以上の規模で、日に千人単位になると聞きますが、受け入れ態勢の検討は行っていますか。

答弁 住民福祉課長

印南町社会福祉協議会を窓口にして、災害ボランティアセンターを立ち上げ、受け入れ態勢を整えることとなります。

長期的な農業振興策と遊休農地の防止策について

質問 町の農業振興策は、農業基盤整備・ブランド力の向上等、レベルの高いものになっていますか。

農家の大半は家族経営や高齢者ですが、現状の実態に合った長期的な農業振興策をお聞かせください。

また、遊休農地化の防止策について、どの様にお考えですか。

答弁 産業課長

長期的振興策については、小規模経営体の基盤安定のため、災害時の支援拡大や、農業施設への補助事業創設等が有効と考えます。

遊休農地化の防止については、農地を利用しやすくする条件整備を図ったり、農業振興地域整備計画を見直したりして、現状の農業を維持していくことが重要と考えます。

【事例報告】九州北部(東峰村)異常気象(線状降水帯)の被害

- ・大雨予報は無く、午後より雨
 - ・午後1時 注意報なく即警報
 - ・午後3時 全域で避難勧告頻繁に停電
 - ・被害 半日で死者3名
- 50億円の施設被害



委員会活動報告

今回の常任委員会は、総務産建常任委員会と文教厚生常任委員会が合同で、平成28年の熊本地震と29年の九州北部豪雨の被災地を視察しました。

いまだに痛々しい大災害の爪痕と、それでも着実に進む復興の息吹を実感しました。

【日時】

平成30年11月5日(月)

～7日(水)

【場所】

●熊本地県(熊本地震)

- ・益城町 視察
- ・熊本城 視察
- ・阿蘇大橋周辺 視察

●福岡県(九州北部豪雨)

- ・朝倉市 研修・視察

【説明員】

議会副議長 梶原康嗣氏
議会事務局長 石井清治氏

- ・東峰村 視察

【説明員】

小野豊徳氏

総務産建常任委員会報告

◎前田 憲男 岡本 庄三 古川 眞
○藤藪 利広 榎本 一平 堀口 晴生
◎委員長
○副委員長

■テーマ【大災害時の災害弱者への対応】

●南阿蘇村阿蘇大橋の崩落現場
高さ700m、幅200m



この崩落に大学生が車ごとのみ込まれ、4ヶ月後に発見され、この地震による死者は50名となりました。

この地域周辺には、これほど大規模ではないが、このような崩落が何箇所も確認されています。火山灰土の堆積で地盤が強固ではなく、急勾配でなくとも崩落が起きるような地層となっています。

●九州北部豪雨後の朝倉市



雨雲が帯状になり連なる「線状降水帯」が発生し、9時間で700ミリの豪雨となりました。その上に、地域特有の「まさ土」や、手入れされていない植林が災いし、雨水の流路をふさいで大きな被害となりました。

文教厚生常任委員会報告

◎中島 洋 夏見 公久 杉谷 考祥
○玉置 克彦 玄素 彰人 藤本 良昭
◎委員長
○副委員長

■テーマ【災害後のボランティアと心のケア】



木材の流出を防ぐ「スリットダム」

1基5千万円で、5基設置されています。





この地域には60戸120人余りが生活していましたが、「長期避難世帯」の認定を受け、昼間の農作業以外は居住することができません。認定解除のめどは立っていません。



(委員長所見)

■総務産建常任委員長

今回の視察を通して、私たちの住む印南町と比較して大きく違うところは、火山灰土や「まさ土」という柔らかく流れ出しやすい土質が大きな被害を生んだ要因でもあると思います。

ただ、朝倉市や東峰村のように、手入れの行き届いていない植林が流出し、河川を塞いでしまうというようなことは、印南町も同じ様に言えるかもしれせん。

テーマである避難弱者に対しては、有事の際には、地域や近所のつながりによる共助が大切である、というのが答えかと受け止めました。

熊本市内では、新しい家の建設があちこちで進んでいますが、熊本城や阿蘇大橋周辺は、まだまだこれからの状態でした。

(委員長所見)

■文教厚生常任委員長

今回の視察では、あまりにも大きな被害状況を目の当たりにし、他人事ではない事を改めて心に刻みました。

そんな状況の中で復興して行くには、「ボランティアの存在無くしてはできない」と、どの被災地でも言われました。

それと同時に、ボランティアの方々をスムーズに派遣することの難しさや、ボランティアセンターの大切さなども学び、何よりも、必ず来るとされる災害に備えて、繰り返し訓練することの大切さが改めて分かりました。



広報委員会 研修会

【日時】10月9日～10日

【場所】シエーンバッハ サポール
今回の研修で学んだことを今後の広報活動にいかし、より住民の方に読んでいただけるよう努力してまいります。

2日目は、県選出の国会議員の先生方に、ご挨拶に伺いました。中でも世耕経済産業大臣は、大臣室にお招きくださり、気さくにお話をしていただきました。

お忙しい中時間を割いていただき、感謝いたします。

議員辞職について

平成30年12月20日、玄素彰人議員が、一身上の都合により議員を辞職しました。

印南町文化サークルの会 「創作部門・陶芸クラブ」

文化サークルの会には、創作部門と、コミュニティ部門があります。今回は創作部門・陶芸クラブを紹介します。

公民館が、現在の印南町商工会館前にあったころ、文化展は印南小学校講堂であった。

その当時、陶芸は有志が田辺市や御坊市等々へ習いに行っていた。その内、尾花幸男氏等が公民館活動で、体験教室の形で取り組み始めた。また、文協に陶芸サークルは、開設していなかった。有志の陶芸作品は、一般参加の形で文化展に出品していた。



そんな折、(故)高木實・文協顧問より、「協会に、陶芸クラブを新設したらどうだろう」と相談があり、「願ってもない話」と即答した。

早速、平成十九年から正式に、文化協会所属のサークルが開設する。当初は、

【サークル長】尾花幸男氏
【世話人】熊代泰久氏

の布陣でスタート、尾花窯は古井で、熊代窯は印南浜で、二人の自宅窯の二ヶ所での教室活動が始まった。

その後、会員の積極的な制作活動により、秋の文化展、春のロビー展に多数出品するまでに。また、町外の展示会等で数々の賞も受賞し、会員の励みになっている。

このサークルでは、二年毎に、作った作品のチャリティバザーを開催している。それも、会員の生きがいのような。

現在は、尾花窯は休部していますが、熊代窯で活動、楽しく取り組んでいる頼もしいサークルです。(会長・坂下緋美)

あなただけのお皿や茶碗等、気楽に土にふれてみませんか。初心者歓迎です。

布陣【指 導】熊代泰久
【サークル長】小川 武

詳細のお問い合わせは
【サークル長】小川 武まで
(0738・44・0345)



公民館ロビー展にて

あともがき

昨秋から年始にかけて、赤・黄・緑と近年にない紅葉が町内各地でみられました。これは台風による潮風のせいだと人は言いますが、??いずれにしろ、素晴らしい光景であることは間違いありません。

さて、今年の新元号が4月1日に公表、5月からスタートする、歴史的な新しい時代の幕開けです。

さらに来年は東京五輪が、2025年には大阪万博が開催され、日本が世界の注目の的となることでしょう。

空想が現実となるAI時代到来の中で、我々も自然豊かなわが故郷の発展のため、猪突猛進で頑張つてまいりましょう。

(藤本 記)

TEL 42-1739
FAX 42-8055
議会広報特別委員会

委員長 中島 洋
副委員長 古川 良真
委員 藤本 憲昭
委員 前田 考男
委員 杉谷 克彦
委員 玉置 彦